



園だより



令和8年 2月1日
佛教大学附属こども園

「仏教保育2月のねらい」
ぜんじょうせいじゃく
禅定静寂



「明日も…」

1月21日、この冬1番の寒さと報じられた日、園庭にうっすら雪が積もりました。雪が積もったと言えないほどの積雪量です。それでも子どもたちは真っ白な園庭を見て、「雪が積もってる！」と園庭に飛び出していました。地面が白く色づくくらいの雪なので、みるみるうちに雪はなくなりました。それでも子どもたちはあたりを見回して雪のありかを探します。

「雪合戦しよな!」「雪だるま作ろう!」などと口々に言いながら、滑り台の下の日陰の地面、いのちの森の入口、ままごと道具の中などにある残り少ない雪を集めていました。園庭で子どもたち一人ひとりが一生懸命考えているように見えました。

3歳のAちゃんは園庭のベンチの上に雪を見つけました。最初は手でつまんでいたのですが、手は冷たいし、かじかむし、あまりたくさん集めることができません。しばらくすると、道具入れの中からスプーンとお皿を出してきて夢中になって雪を集め始めました。どんどんその姿勢は前のめりになっていきます。

しばらくすると、Aちゃんはカップの飲み口を地面にこすらせて雪を集め始めました。すると、カップはブルドーザーのように雪を集めます。そして近くにいた保育者に「こうやって持ちや。たくさん集められるで。」と自分の考えた「いい方法」を薦めていました。

開放的に遊んでいる雪遊びの日、子どもたちは心の中で思考を巡らしているのです。子どもたちが思考を巡らせる時には、そこに「心が躍る」環境があるように思います。

そして、その日の降園前のお参りでは…

保育者の耳に聞こえてきたのは、「明日も雪が降りますように…」という言葉でした。子どもたちは毎日勢至丸様の前で手を合わせ、今日あった出来事やそれぞれの願いを勢至丸様に心の中でお話します。「雪で遊んだの、楽しかったな。また明日も雪で遊びたいな。」という思いが込められているようでした。自身の1日を振り返り明日への願いや決意を口にする子どもたちの姿に、私たち大人も毎日の生活の中で、1日を振り返り深く考える時間を持たなくては…と教えられます。子どもたちが思いを素直に口にするように、私たちも抱いた願いを言葉にのせて子どもたちに手渡していきたいと思います。

2月の保育のねらいは「禅定静寂」(よく考え、落ち着いた生活をしよう)です。あわただしい毎日ですが、静かな環境で落ち着いて考える時間は必要です。寒い毎日ですが、ご家庭で食事をしながら、お風呂につかりながら、今日あった出来事や感じたことを伝え合う温かい時間を作っていただけることを願っています。

副園長 村上真理子

